自治体名：千葉県横芝光町

自動運転社会実装推進事業

最終報告書（公開版）

**【事業背景・目的】**

若年世代流出と高齢化が進んでいる地域である一方で、2029年の第３滑走路供用予定を含む成田国際空港機能強化や圏央道・銚子連絡道の整備は周辺地域において人・モノの動きに大きく影響を与える見込みであり、現在、町では空港関係就業者の若年世代の定住先に選ばれる為に、新たな都市構造への転換を目指して居住地形成戦略・産業振興戦略・交通網形成戦略を進めている。

　高齢化による移動需要の変化、ドライバー不足など2024年問題に対応し、地域 の公共交通課題解決に貢献。既存交通と連携した新たな交通網を構築し、すべての世代にとって魅力あるまちとして若者世代の定住先として選ばれる事を目的としている。

**【事業内容】**

2023年度は利用者が最も多いと想定されるエリアとして、横芝駅～ピアシティ横芝光（スーパーカスミ横芝光店）～東陽病院を結ぶルートとしたが、アンケート結果から住民はルート延伸を希望していることが判明し、移動需要が高い地点を運行ルートに加え、横芝光駅と横芝光ICを結ぶルート、既存ルートから敬愛高校前（付近に商業施設あり）、ドラッグストアに延伸するルートとした。

これにより、デマンド交通やコミュニティバス、横芝光号成田便バスなど既存交通モードの補完が期待できる。また、デマンド乗合タクシーの予約が困難な実態についても、自動運転バスを介在させることで、主要施設間の移動にかかる予約枠の節約を図ることができ、ひいては外出機会の創出に繋がるものと考える。

運行は2023年度に導入したmini busを継続運行し、6月25日～2月28日（月曜日除く）の計197日間、4月2日～6月23日（月曜日除く）の計69日間は町単独費で運行した。

**【検証項目・検証方法】**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証項目 | 検証方法 |
| 経営面 | スポンサー・協賛 | スポンサーや協賛企業を募る |
| ソーシャルインパクト検証 | 移動以外に係る効果の検討（経済的波及効果） |
| 技術面 | 自動運転比率 | Dispatcherによるデータ‐収集 |
| 社会受容性面 | 自動運転車両動画のHP掲載 | 総視聴回数 |
| 近隣学校説明（校外学習受入） | 説明会・視察受入 |
| 県内の市町村向け説明会 | 説明会・試乗会の開催 |  |  |

**【検証・分析結果】**

■経営面

・収入面

アンケート調査の結果、適正運賃は既存循環バスと同額の２００円までであれば許容できるとの回答が最も多かった。

一方で、自動運転バスの反復利用理由の８割は「料金が安い／無料」であり、町民意見を鑑みつつ、

次年度以降賃料設定は慎重に検討を行っていく方針。

・支出面

オペレーターや遠隔監視員の労務費用や来年度のレベル４申請に向けた準備のための労務費として50,128千円を支出した。毎週月曜日を除いて毎日運行しており、運行日にはオペレーターと遠隔監視員常時2名が稼働。オペレーター、遠隔監視ともに株式会社セネックから派遣してもらった。現時点では自動運転車両が1台であるが、将来的に2台体制（1：2）とする考えであることから、台あたりの遠隔監視員のコストが半減することが期待される

・移動以外にかかる効果（経済的波及効果）

今年度は経済的波及効果について街頭での聞き取り調査の結果、バスの乗車目的としては「買い物」が最も多く５割超を占めることが判明した。

自動運転バスは町民が買い物をする主要商業施設2拠点を循環コースにしており、外出機会増加への町民の期待は7割を超える結果となった。

また、外出時の平均支出額は１，０００円～５，０００円未満が最も多く、自動運転バスの台頭により移動機会が増加することにより、経済的波及効果の増大も期待できるものと推測する

■技術面

今回の実証では、駅から県道を南下する走行ルートは検証を行わなかったが、比較的手動介入が少ない区間であったため、レベル４候補として今後も検証・調律を行う。

駅までの走行区間が長いため、バス停留所の間に新設できないか今後検証する。

■社会受容性面

今年度は敬愛高校前(商業施設ビックハウス付近)、ドラッグストアコスモス前のバス停留所を増設したことでここから駅に向かう人が増加した。

役場にバス停留所を増設したことで駅から役場に行く人が増加した。

近隣学校への説明（校外学習受入）は成立しなかったが、県内の高等学校の視察受入は１件であった。

【イベントの開催】

自動運転技術に関する展示会や講演会を開催し、理解促進を図る。

※2025年3月に千葉県の補助金を活用し、県内の交通政策担当を対象とした試乗会・事業説明会を実施し、自動運転技術の波及効果の向上を図る。

【多様な運行パターン】

通勤・通学需要や観光客向けなど、多様な利用シーンに対応した運行パターンの検証を実施する。

【路車協調システムの導入】

交差点等での円滑な走行を支援する路車協調システムを整備し、安全性と利便性を向上させる。